

所属・資格 総合文化研究室・准教授

申請者氏名 徳泉 さち

研究課題		日本書道史における女性の書
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>現在、流布している日本書道史の概説書や書道全集などにおいて、女性の書に割かれる頁数は極めて少ない。また、現代書壇において女性書家は、「女流」書家と呼ばれるように男性中心の書壇において周縁化された存在といえる。</p> <p>個々の女性書家に関する研究は、美術史や国文学、郷土史研究のなかで蓄積されてきたものの、通史的な視野で女性の書の変遷を論じた研究はほとんど未開拓の分野である。本研究の目的は、まず今まで看過されてきた女性書家の業績を発掘すること。そして、奈良時代から江戸時代、現代に至るまでの長いスパンにおいて女性がどのような書を書いてきたのか、女性書家の役割を再確認して、その概要を掴むことを大きな目的としている。</p>
	研究の結果	<p>本年の大きな成果は、昨年度はコロナ禍のため延期されていた調査が実施できたことである。女性篆刻家・河野晶苑（1924～2000）は、松丸東魚（1901～1975）に師事し、毎日書道展や日展での受賞を皮切りに生涯を篆刻制作に捧げた。彼女の遺品や蔵書などは、出身地の地縁もあり現在は愛媛大学に寄贈されている。愛媛大学図書館のご協力のもと、2022年8月9日、10日の2日にわたり、河野晶苑資料の閲覧調査、撮影をすることが叶った。篆刻作品や印譜や掛け軸、茶道具などの工芸品など多岐にわたる資料を実見し、知られざる篆刻家である彼女の制作活動に関する知見を得た。</p> <p>また、良縁に恵まれ、河野晶苑のご遺族の方との面会が叶い、河野晶苑がどのようにして篆刻の道に入っていったのか、また篆刻家としてどのように生計をたてていたのかプライベートな部分に踏み込み、聞き取り調査することが出来た。</p>
	研究の考察・反省	<p>女性書家の記録自体が極めて稀であるが、特に彼女たちが男性優位の書道界でどのように立場を確立していったのかは本人たちもほとんど語り残さず、不明のままである。今般、河野晶苑氏の書壇における女性ならではの苦労話などを聞き、これらの記録は昭和の女性芸術家の伝記として、書道史のみならずジェンダーと芸術の問題を考える際にも貴重な資料になるであろうとの感触を得た。</p> <p>今年度の反省点は、昨年からの積み残し課題である河野晶苑の個人研究に留まってしまい、他の時代の書家に着手できなかった点にある。しかしながら、河野調査で一定の方法論などが見えてきたため、今後のモデルケースとして基礎研究を固めることが出来たと考えている。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>本年度は、一身上の都合により下半期の活動が大幅に制限され、発表や論文執筆の予定が滞ってしまった。以下、来年度に予定している発表と成果物を記す。</p> <p>〈研究発表予定〉 全国大学書写書道教育学会「篆刻家・河野晶苑の作品とその人物」2023年9月開催場所未定</p> <p>〈研究成果物予定〉 「篆刻家・河野晶苑の作品とその人物」『日本大学文理学部研究紀要』第106号、2023年9月発行</p>	